

ねん がつ にち
2025年3月16日

しじゅんせつだい しゅじつ
四旬節第2主日

きくち いさお すう きぎょう
菊地 功 枢機卿 メッセージ

しじゅんせつ
四旬節は、わたしたちが信仰の原点に立ち返るときです。きぼう じゅんれいしゃ
希望の巡礼者として歩んで
いるわたしたちに、ふくいん きょうつう すく きおく
福音は、共通の救いの記憶、すなわち 共同の信仰の原点に立ち返
ることの重要性をおし えいこう ひか かがや
教えています。栄光に光り輝くイエスにこそ、わたしたちの信仰の
げんてん きぼう ふくいん つた
原点である希望があることを、ルカ福音は伝えています。ペトロ、ヨハネ、ヤコブにと
って、信仰の原点は、ごへんよう で きごと けいけん
御変容の出来事の経験でありました。わたしたちの原点としての体験
は何でしょうか。この四旬節に、あらためてわたしたちに きょうつう きぼう みなもと み
共通する希望の源を見つ
め直しましょう。

げんてん いったい
その原点は、一体どこにあるのでしょうか。

そうせい き
創世記は、まだアブラムと呼ばれていたアブラハムをかみ えら けいやく むす
を神が選び、契約を結ばれた出来事
を記しています。くらやみ なか てん あお ほし かぞ
暗闇の中で天を仰ぎ、「星を数えることができるなら、数えてみるが良
い」と告げられたアブラハムの おどろ そうぞう
驚きを想像します。アブラハムの信仰の原点は、くらやみ
まんてん ほし なが みらい む にんげん そうぞう はる こ やくそく あた
満天の星を眺め、未来に向かって人間の想像を遙かに超えた約束を与えられた、その夜
の おどろ おも
驚きであったと思います。

ふくいん ごへんよう で きごと たいけん で し おどろ しる かみ えいこう ま
ルカ福音は、御変容の出来事とそれを体験した弟子たちの驚きを記します。神の栄光を目
のあたりにしたペトロは、なにを言っているのか分からないままに、そこに仮小屋を三つ建
てることを提案したと福音は伝えます。きつとペトロはその輝く栄光の中にとどまりた
かったのでしょうか。

ふくいん とも あらわ しる ふたり りつぼう よげんしょ しょうちよう
福音はモーセとエリヤが共に現れたと記します。この二人は律法と預言書の象徴、す
なわち きゅうやく かみ たみ けいやく しょうちよう
旧約における神とイスラエルの民との契約を象徴します。その中で神はイエス
を名指して、きゅうやく
旧約ではなくイエスこそがそれを しょうちよう
凌駕する存在であるとして、「これは
わたしの愛する子。これにきき けいやく
聞け」と告げたと記されています。この日の神の栄光を目の当
あたりにした おどろ なか きゅうやく りょうが あたら けいやく しゅ
驚きと、その中でイエスこそが旧約を凌駕する新しい契約の主であると告
げられた弟子たちの おどろ きょうかい しんこう げんてん
驚きは、教会の信仰の原点でもあります。わたしたちの希望の源

はイエスにあることが明示めいじされました。

教皇様は大勅書「希望きぼうは欺あざむかない」にこう記しるしています。

「希望きぼうと忍耐にんたいが影響えいきょうし合うことから、次のことが明らかあきになります。つまり、キリスト者しやの人生は目的地じんせいである主しゅキリストとの出会いであへと導みちびいてくださるかけがえのない伴侶はんりよ、すなわち希望きぼうを養やしない強つよめる絶好ぜっこうの機会きかいを必要ひつようとする旅路たびじだということです (5)」

巡礼じゅんれいの旅路たびじは忍耐にんたいを必要ひつようとする旅路たびじです。わたしたちは主しゅとの出会いであにこそ救いすくの希望きぼうがあることを心こころに刻きざみ、忍耐にんたいのうちに、しかし希望きぼうもあゆあゆみつづつづけます。この世よの栄光えいこうにとどまることはしません。そこに希望きぼうはありません。イエスとの出会いであは、この世よの栄光えいこうをうち捨て、苦難くなんの道みちを忍耐にんたいもあゆあゆみつづつづきさき存在そんざいします。わたしたちの信仰しんこうの原点げんてんは、イエスの言葉ことばと行おこないとの出会いであです。そこにこそ希望きぼうがあります。その希望きぼうに導みちびかれた、わたしたちはイエスとの出会いであへと歩あゆみを進すすめる者ものでありたいと思おもいます。